

立命館大学アート・リサーチセンターでの大学院展開：
文学研究科行動文化情報学専攻文化情報学専修
Digital Humanities as a Graduate Program
Developed by the Art Research Center, Ritsumeikan University

矢野 桂司

Keiji YANO

立命館大学アート・リサーチセンター，京都市北区等持院北町 56-1

Art Research Center, Ritsumeikan University, 56-1 Tojiin-kita-machi, Kita-ku, Kyoto

あらまし：本発表では、2014 年度 4 月にスタートした、立命館大学大学院文学研究科行動文化情報学専攻文化情報学専修の教学内容を紹介する。この文化情報学専修は、2002 年度から立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）が中心となって推進した 2 つの文部科学省 COE プログラムの後継大学院として設置されたものである。特に、2 つ目のグローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」で展開した様々な研究・教育成果（協働型のプロジェクト研究、データベース、国内外の人的ネットワークなど）や、大学院生を対象とした教育プログラムをベースとして、文化情報学専修のカリキュラムが構築された。また、ARC は、2014 年 4 月より、文部科学省共同利用・共同研究拠点に認定され、そこでの共同研究においても、大学院生の参画が期待されている。

Summary: This paper introduces the new graduate program of Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures, Graduate School of Letters, launched in April 2014. The program is based on two consecutive COE (Center of Excellent) programs, organized and promoted by the Art Research Center (ARC), Ritsumeikan University, since 2002. The second COE program entitled “Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures” especially contributed to the graduate program’s curriculum, as the Center developed its distinctive research methods and educational program with its collaborative research projects, enormous databases on Japanese arts and culture, and research networks both in and outside of Japan. As the ARC has also been serving as a Joint Usage/Research Center, designated by the MEXT in 2014, we very much expect our graduate students’ active involvement in its collaborative research.

キーワード：文化情報学専修、日本文化デジタル・ヒューマニティーズ、アート・リサーチセンター、立命館大学

Keywords: Program of Digital Humanities in Graduate School of Letters, Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures, Art Research Center, Ritsumeikan University

1. はじめに

立命館大学アート・リサーチセンター（ARC）は、人類が持つ文化を後世に伝達するために、芸術、芸能、技術、技能を中心とした有形・無形の人間文化の所産を、歴史的、社会的観点から研究・分析し、記録・整理・保存・発信することを目的に 1998 年に、設立された。

ARC は、京都にある総合大学の研究所として、当初から文理融合・連携を前提とし、異分野の研究者の英知を集結させて、人文学研究では珍しい共同研究あ

るいはプロジェクト研究を、私立大学学術研究高度化推進事業などの外部資金をベースに展開してきた。

そして、2002-6 年度文部科学省 21 世紀 COE プログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」に採択され、伝統的な人文学と情報科学を連携させた日本文化研究を推進させた。その成果をもとに、2007-11 年度文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」の採択を受け、日本のデジタル・ヒューマニティーズ（DH）の

代表的な拠点として国際連携を推進するとともに、若手研究者の育成に力を注いできた。

2. 文学研究科文化情報学専修

2014年4月に文学研究科は、人文学専攻と行動文化情報学専攻の2専攻に改組し、人文学専攻には、哲学、日本史学、日本文学などの伝統的な人文学の11専修が、行動文化情報学専攻には、実験系の心理学、地理学、考古学・文化遺産に加え、文化情報学の4つの専修が設置された。文化情報学専修には、進学者の母体となる学部専攻がないが、他大学はもちろん、日本文学、日本史学、京都学専攻などから、情報技術やデータベースを活用した日本文化研究を目指す学生の進学を想定している。

教員体制は、前述のCOEプログラムを展開した日本文化情報学、地理学、京都学などの文学部教員を中心に、講義・演習には、ARC所属教員や、情報理工学研究科などの他研究科の教員が参加している。また、ARCのプロジェクト研究に参画している国内外の研究者によるリレー講義も設けている。

文化情報学専修の講義科目は、博士課程前期課程、後期課程ともに文学研究科の学則・履修要項に則り、以下の講義科目と演習科目を配置している。

1) 講義科目：文化情報学研究Ⅰ・Ⅱ、文化情報資源学Ⅰ・Ⅱ、文化情報学特殊問題Ⅰ・Ⅱ、2) 演習科目(技術習得)：文化情報学技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、3) 演習科目(ゼミ形式)：プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ(インターンシップ)、前期課程特別研究Ⅰ～Ⅳ、後期課程特別研究Ⅰ～Ⅵ、4) 文学研究科共通科目：デジタル・アーカイブⅠ・Ⅱ、学芸員のためのデジタル技術、文化遺産保全継承論、情報人文学の最前線Ⅰ・Ⅱ

3. プロジェクト研究による大学院教育

文化情報学専修の教育の特徴は、近年、国際的に認識されてきたデジタル・ヒューマニティーズ(DH)というデジタル技術を活用した人文学の動向を踏まえながら展開している点にある。それは、前述の「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」で行われ、現在も進行しているARCでのプロジェクト研究に大学院生が参画する点にある。プロジェクトであるがゆえに、異な

る分野・機関の研究者との共同(協働)が不可欠であり、大学院生は、そのような活動の中から修士論文、博士論文の研究テーマを設定していくことになる。

ARCは、日本文化に関わるデータベース(浮世絵DB、歌舞伎関連DBなど)や、歴史都市京都に関わる膨大な地理空間情報を蓄積し公開してきた。これらのDBを単独あるいは融合させて、教育・研究が展開されるが、プロジェクト研究が、これらのDBをさらに豊富化させて行くことも期待されている。この活動は、2014年度からスタートした文部科学省共同利用・共同拠点研究の活動の中でさらに展開されることが期待される。

なお、大学院生の指導は、専修のすべての教員と大学院生、加えてARCのプロジェクト研究の関係教員・研究員によって、共同指導体制で行われる(週1回、卒業論文・博士論文の執筆や学会発表に向けての指導が行われる)。さらに、これまでの国内外の関連機関との人的ネットワークを活用して、インターンシップ演習を展開している。国外であれば、大英博物館などの日本の文化財を所蔵する機関に派遣し、文化財のデジタル化やメタデータの作成などを実施する。その成果は、そのままARCの研究成果としても蓄積されることになる。このように大学院生がプロジェクト研究に参画することが、研究所であるARCが研究だけでなく、大学院教育に積極的にかかわるメリットとなる。

4. おわりに

本発表では、情報技術を活用した文理融合・連携・統合型の日本文化研究をデジタル・ヒューマニティーズ研究として展開しているARCが、どのような大学院教育を展開しているのかを紹介した。

シンポジウムでは、ARCで展開している、プロジェクト研究やデータベースの具体例などを含めて紹介する予定である。

参考 URL

立命館大学アート・リサーチセンター

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/>

立命館大学大学院文学研究科

<http://www.ritsumei.ac.jp/gslt/introduce/major/major14.html/>